

郡上農林事務所の普及活動状況 令和6年8月31日現在

今月の重点活動

■就農支援 サポートチームで就農状況を確認

農林事務所（農業普及課、農業振興課）、郡上市、JAで組織する新規就農サポートチームはアグリチャレンジ支援センターと連携し就農5年以内の新規就農者の就農状況確認を8月から開始した。

それぞれの新規就農者から、現時点の技術習得状況や青年等就農計画の達成状況等を書類と聞き取りで確認し、また栽培品目と農地が適切に管理されていることも現地確認する。

農業普及課では、関係機関と連携し、新規就農者の技術・経営能力の向上と就農定着に向けた伴走支援を継続していく。



【就農状況の聞き取り】

郡上の農業・農村を支える人材育成

■就農支援 「郡上トマトの学校」体験コースを開催

JAめぐみのが運営する就農研修施設「郡上トマトの学校」で、第5回体験コースが8月20日に開催された。体験コースは、毎月1回開催され、夏秋トマトの育苗から収穫までの1連の流れを体験して、郡上が夏秋トマト産地であることを知り、本格的なトマト栽培に触れることで、就農を考えてもらうことを目的としている。

今回は、4名の受講生が参加し、ほ場内での管理作業（誘引、芽かき、摘芯等）についてJA、農林事務所、郡上市営農指導員が指導を行った。受講生は、作業内容や手順の説明に熱心に耳を傾け、管理作業を体験し、作業のコツ等を習得した。

体験コースは10月まで7回の開催が計画されており、農業普及課では、新規就農者確保に向け今後も体験コースの活動を支援していく。



【作業の説明を聞く受講生】

■農福連携 トマト生産者に対する農福連携PRとニーズ調査を実施

当地域において、夏秋トマトは多くの新規就農者が選択するなど、主要な園芸品目となっているが、適期作業を励行する上で、必要となる労力確保が課題となっている。一方、農福連携は農業と福祉、双方の課題解決を図るものであり、農業普及課では農業分野の課題解決を目指し、本年度は夏秋トマト生産者における、補完労力確保を目的に農福連携を推進している。

8月6日に、奥美濃トマト生産組合の、概ね就農5年以内の生産者ら3名を巡回し、労力に対する考え方、農福連携への関心について聞き取り調査をおこなった。その結果、2名が関心を示され、うち1名からは積極的な活用姿勢も確認されている。労力確保の先には、適期作業の実施、そして収量品質の向上も期待でき、これは若手就農者等における、経営改善にも結びつくものである。

今後、トマト生産者におけるニーズ調査を継続しつつ、農福連携推進センター及び管内関係機関と連携し、農業分野と福祉分野がウィンウィンの結果に結びつくよう、鋭意取り組んでいきたい。

郡上農畜水産物のブランド展開

■水稲 郡上産米ブランド化研究会の現地研修会を開催

郡上産米ブランド化研究会の現地研修会が8月8日に開催され、会員25名、関係機関（JA、市、農林事務所）5名が参加した。

研修会では、前年米コンテストの最優秀賞受賞者の「コシヒカリ」のほ場と、高温対策として試験的に取り組んでいる「きぬむすめ」のほ場を視察し、意見交換を行った。また、スマート農業機器の「ドローン」「リモコン式草刈機」の実演会も開催し、参加者は急傾斜の畦畔でも作業が可能な草刈機に興味を示していた。

当研究会は、平成28年度に設立された研究組織で、「郡上おいしい米コンテスト」や全国規模のコンクール等に参加し、会員の技術向上や郡上産米の知名度向上に貢献している。農業普及課では、設立当初から研究会の活動を全面的に支援している。



【リモコン草刈機の実演】